

# 久留米の自然



久留米の自然125号

2015年9月1日

和種名：ニホンザル

学名：Macaca fuscata

撮影場所：久留米市浄水場

撮影年月日：2006年1月31日

撮影者：津田 堅之介

## 野生のニホンザルと平和に共存するためには

津田 堅之介

この春、福岡の市街地に野生のニホンザルが出没し、人が引っかけられる騒ぎが起きました。でもこのサルはなぜ福岡の都心に現れ、そしてなぜ人を襲ったのでしょうか？

実は野生のニホンザルは、全てのオスが4～5才の青年期になると、思春期を迎えた人間の男子と同じように、群れの中で大人たちに疎まれ居心地が悪くなり群れを離れ放浪の旅に出るのです。そして気ままな一人旅をしながら、気に入った群れを探し入り込みます。つまり咬みつきザルは、そういう好奇心旺盛な若いオスザルだったのです。高崎山から失踪したオスが久留米で確認されたこともあり、数年前は東京の渋谷駅にサルが現れて大騒ぎになりました。サルはどこに現れても不思議はないのです。

ではそういうサルには、どう対処したら良いでしょう。とにかく餌を絶対にやらないこと。餌付けは、人間の食べ物の味をそして人間は怖くないのだということを教えてしまい居つかせ害獣化させることとなります。

そして、近づかないこと。特に強制的にお巡りさんを出動させることになる、110番通報は絶対に止めましょう。野良ネコだって網で捕まえるのは不可能なのに、結局大声を上げ追いかけて回すことで、人間は自分を見ると襲ってくる凶暴な猛獣だと思い込ませ、今回のサルのように人を見かけると身を守ろうと襲うようになってしまいます。

そして福岡のサルは、ビワの実のる家から家を回っていたようですが、やがて全く情報は途絶えたことから分るように、餌も無くなり都会に疲れ果てて、のんびりと住み慣れた山へ帰って行ったのです。

では、もう既に凶暴化してしまったサルに出会ったらどうしたら良いのでしょうか。すぐにサルが苦手とする大人の男の人か、イヌを連れている人のそばへ静かに行きましょう。サルを見ても慌てず冷静に行動すれば、このようにトラブルは避けることができます。

## 郷土の樹木22

## ハギ 猪上 信義

一般に私たちがハギと呼んでいるもの(マルバハギ, ニシキハギ(ビッチュウヤマハギ), ミヤギノハギ, ヤマハギ, ツクシハギ)は半低木\*(亜低木)であり、厳密には樹木と言えるかどうか疑問ですが、ここでは秋の植物の代表としてとりあげます。

葉は落葉性で羽状に3小葉をつけ、托葉は針形ですが、すぐに脱落することが多い。茎の先は細かく枝分かれして、そこに総状花序または葉の腋に束生し、花は長さ1.5~2.0cm、通常紫紅色で(稀に白色)です。果実は1個からなる楕円形の豆果で、熟しても飛び出ることはありません。

日本や朝鮮、中国などの日当たりのよい草地や林縁に群生します。久留米市をはじめ筑後地方の山野に普通に見られるのはニシキハギが多いのですが、道路路面などに種子吹付されたりして、他の種類が混じることもあります。

これら5種の区別点は次の通りです。詳細は図鑑類を見ていただきたいのですが、一番わかりやすいのは、益村聖先生の「絵合わせ九州の花図鑑」(海鳥社)です。

A1 花序は基部の葉より短い …マルバハギ

A2 花序は基部の葉より長い

B1 小葉の表面に細かい圧毛がある

…ニシキハギ

B2 小葉に柔毛があるが、後に無毛となる

C1 萼裂片は鋭尖頭又は鋭頭、小葉は鋭頭

…ミヤギノハギ

C2 萼裂片は円頭又は鋭頭、小葉は円頭又はやや鋭頭

D1 萼歯の先が鋭尖頭で、葉裏に0.5~0.3mmの毛が密生する …ヤマハギ

D2 萼歯の先が鈍く、葉裏に0.3~0.2mmの毛が密生する …ツクシハギ

ただ、これらは混生していると交雑しやすいので、中間形が数多く見られます。

ハギの語源はハエキ(生芽)で、毎年古い株か

ら芽を出すことからついでにいます。

昔から観賞用や砂防用に植えるほか、牧草として家畜のえさとします。また樹皮を縄の材料としたり、種子を粉にして食料としたり、葉をお茶の代用としたそうです。

このように親しまれた植物で、「万葉集」にはハギを詠んだ歌が141種みられます。中でも有名なのは山上憶良の「萩の花尾花葛花鬘麦(ナデシコ)の花女郎花(オミナエシ)また藤袴朝顔の花」で、これが秋の七草となりました。また萩という字はいわゆる国字で、秋の草の代表として、平安時代にこの字が作られました。

萩の餅(ハギノモチいわゆるおはぎ)は「煮た小豆を粒のまま散らしたのが、萩の花の咲き乱れる様に似るところから」ということで。同様に牡丹の花になぞらえて牡丹餅(ボタモチ)の名前ができたそうです。

ハギ属には完全に低木となるキハギや半低木のイヌハギ、マキエハギ、それに多年草のヤハズソウ、ネコハギ、メドハギなどがありますが、これらは一般的にはハギに含めません。

\*半低木…茎の下半分又は地際付近だけが木化する植物で、草と木の間性の性質をもつ。他にヤマブキ、モミジイチゴ、コウヤボウキなどがある。



ニシキハギ



マルバハギ



ツクシハギ

## 高良川流域のキノコ (その27)

角 正博

今回は、旧分類では多孔菌科シミタケ属 *Tyromyces* とされていたアケボノオシロイタケです。現在も所属科は未確定のようで、とりあえず多孔菌科としておきます。属名もシミタケが *Postia* 属となったため、*Tyromyces* はオシロイタケ属としているようです。とりあえず、ここで扱っておきます。

### 47. アケボノオシロイタケ (曙白粉茸) *Tyromyces incarnatus*

一年生のキノコで、同じく赤色系のキノコであるヒイロタケが、春から梅雨時にかけてコナラやサクラなどの広葉樹に発生するのに比べると、アケボノオシロイタケは梅雨以降に見られ、高良川流域では夏のキノコです。アケボノオシロイタケは、高良川流域では溪流沿いの陰湿な杉の倒木や切株に着生しています。アケボノオシロイタケは、アカマツやスギなどの針葉樹の腐朽菌ですが、筑後地方ではほとんどアカマツ林はコジイやコナラ林となっているためか、陰湿な溪流沿いのスギ林でしかみることがありません。久留米市外の八女市の童男山の場合も、溪流沿いの陰湿な杉の切株でした。

子実体には短い柄がみられることもあります。傘は半円形、厚さは1cm程度で、同じ赤色系のキノコであるヒイロタケと比べると厚みがあり、傘表面は紅色～バラ色で、朱紅色のヒイロタケより濃く鮮やかで、陰湿なスギ林では、よく目立ちます。生時は水分を多く含み、柔軟性があります。傘下面の色は、傘表面の色に比べると、淡くなります。

キノコ観察会では、初心者にはヒイロタケと間違えられ見過ごされてしまうアケボノオシロイタケですが、すでに述べたように①ヒイロタケが広葉樹の腐朽菌であるのに対して、スギなどの針葉樹の腐朽菌であること、②傘はヒイロタケより厚み

があり、朱色系のヒイロタケより紅色系でさらに濃い色合いであること、③生時は水分を多く含み柔軟性があることの三点がよい区別点となります。



アケボノオシロイタケ

### 第34回くろめ緑の祭典グリーンキャンペーンにおいて金子周平氏が緑の貢献者受賞

橋田 沙弓



表彰された金子周平氏

平成27年5月5日(子どもの日)午前10時、鳥類センターにおいて、第34回くろめ緑の祭典グリーンキャンペーンが開催されました。その4団体と個人表彰6名の部で当会会員の金子周平氏が表彰されました。金子周平氏は1974年に福岡県に入庁し、翌75年に当時の林業試験場(現農林総合試験場)に就任以来、一貫してきのこ類の研究に

従事おられます。研究初期においては、シイタケの原木であるクヌギやコナラを食害する害虫ハラアコブカミキリ防除初期の開発、里山から深山まで分布する食用きのこのヒラタケに生じるひだこぶ病の防除技術の開発を行いました。また、都市部の公園や街路樹として貴重な、サクラ類の枯損について、ナラタケモによるものが多いことを明らかにし、その被害はウメ、クリ、シイ類・カシ類に及ぶことを明らかにしました。こういった研究経験を生かして、毎年、久留米の自然を守る会が主催するきのこの観察会においては、森の中で実際に生育しているきのこ類を観察しながら、特に子ども達を対象に興味ぶかい説明を加え、自然や緑に興味を持たせる活動を16年間続けておられます。

### 生き物に魅せられて 63

#### アカサシガメの巻

松永紀代子

2013年の7月のはじめ、梅雨が早く明けた庭のフェンス際クズの茎に、ハゴロモの幼虫が何匹もついていた。雨上がりの庭では、ホタルガが飛び始めていた。ふと、家の壁に目がいった。赤いサシガメが止まっている。名前を付けるなら、「アカサシガメ」と思って検索すると、ビンゴ！ 誰もが納得する名前ということだろう。

彼女は、腹端を壁につけて、ゆっくりと卵を産んでいった。オレンジ色に白いキャップがある卵は、弁当箱に入っているような小さなケチャップ容器のようだった。白い部分の内側は、網でできていて、それが、何層か巻いているようだった。きっと通気口の役割をするのだろう。

7月4日、8個の卵の内4個から、幼虫が孵化していた。孵化間もないものはまだ透き通っている。時間の経過とともに色が濃くなり、夕方には皆いなくなっていた。

残りの卵は孵化しない。寄生されたのだろうと、時々ファーブル顕微鏡で見ている。すると、ある時、鱗のように赤い点々が卵の内壁についたのに気がついた。ふ～ん、糞をしたな、寄生蜂。とい

うことは中で蛹になったということだ。

7月13日、卵に黒っぽい小さなハチがついていた。トビコバチの仲間が羽化したようだ。それにしても、今年の暑さは尋常ではない。6日までは時折激しい雨に見舞われたが、それ以降30度を連日越えている。こんな暑さの中、小さな卵の中の温度はそうとう上がっているのではないか。それでもちゃんとハチたちは生きていた。卵殻が薄いオレンジ色をしていることで、紫外線が遮蔽されたということだろうか。通気口もあるし、思うよりは快適な空間なのかもしれない。庭ではクマゼミが大音響で鳴き始めた。あ～嫌だ！ 長い夏になるのかな・・・。

ひととき

動物笑い話

その69

ホッキョクグマ

米田 豊

クマは警戒時や臭いをかぐ時によく立つが、動物園やクマ牧場では入園者に「こっちに投げてよ」と餌ねだりに手をあげた立ち姿を見せる個体もいる。ところが最近、釧路動物園のホッキョクグマのミルクが立ち姿で20数歩歩くばかりか、ポリタンクを手で器用に回しながら立ち歩きをするので人気者になっている。

某動物園のツキノワグマがバット回しで評判を呼び、入園者が増加したので、この機会にミルクにバスケットボールを与え、ダンクシュートする芸を覚えさせたら、観光客増加で動物園や釧路市に多大な貢献をするのではないかと楽しく考える私である。しかし、自然界においてホッキョクグマは厳しい状況下に置かれている。地球の温暖化で氷の張る期間が短くなり、餌のアザラシなどの捕獲が困難になって来ている。もちろん、クマ自身は地球温暖化防止のキャンペーンには立てられないので、絶滅危惧種になってしまい、まさに北極ならぬ難局に立つクマである。

\*体長が2.4～3.4m、体重が400～600kgで、全身白色。北極海周辺に生息し、泳ぎや潜水が巧み。

## 筑紫野市柚木遺跡・古墳の石棺発見

久留米市文化財専門委員 高山美子

平成27年4月4日午後3時頃車を運転中、筑紫野市阿志岐小学校近くのバイパスを走っていたら左手に小高い赤い土が露出した上部に切石が数個列状に並んでいるのを発見した。

小学校時代より、学校の校庭や我家近くのミカン畑で父たちが道路工事作業中に、石棺を発掘していたのをこの目で見ています。体験上「きっと石棺に違いない」と現場に行き、写真撮影し、石棺口に落ちていた土器片らしき品も実写し、すぐ読売新聞ニュース写真のメールサイトに投稿した。

この場所をくまなく調べてみると雨で地盤がゆるみ急斜面から下を見ると土石流のあった切れ込みが多数発生。今にも私の体ごとのみ込まれて生き埋めになりそうな恐怖がよぎった。

その隣家の方にも協力して頂いて少量の出土サンプルを土砂に流されてしまうと調べができなくなる可能性があったため、車まで降ろしてもらった。すぐさま東側県道側にもまわってみたら、すでに、道路側溝には真砂土の泥水が流入。わかばかりの土のうが並べられていたが、大きな土石流が発生したら大事故になりかねないと感じ、すぐ119番に通報した。

阿志岐小学校はすぐ近くにあり通学路でもあるし、県道はバスや車の通行量が多い道路のすぐ横で真砂土を採っている工事の方法がずさんで危ない状態である。

消防車で3名の署員がかけつけ周辺の状況を一緒に調査したら筑紫野市からこの場所は危険地域指定されている所だとわかった。

読売新聞社ニュース写真投稿により筑紫野市教育委員会の文化財調査が始まり、緊急工事で道路への土砂流失防止をしていると報告があり少し安堵している。

4月13日夕刻に筑紫野市教育委員会筑紫野市歴史博物館館長の草場啓一氏らが我家に来訪。現地より採集した品を渡すことができた。現在、関係者が現地を試掘し、まだ他にも石棺が埋まってお

り頭部人骨が出土している状況だと報告があった。

2015年8月5日現在の状況

7月末で調査は区切り、後は室内での詳しい調べを残すことになって分ったことは、弥生時代後期の石棺が約20基、頭骨1体、鉄剣1本、土器片が少々。今後の調査結果が心待ちにされる。この地の約1km北東には那珂川町に今も残る斉明天皇(天智天皇の母)時代に掘られた「さくたのうなで」と呼ばれる運河が存在しているし、興味がつきない。



石棺散乱状況



発掘場所を上から撮る



筑紫野市柚木遺跡石棺2基発見当日

## 高良川流域の地衣類(その15) 角 正博

7. アリノタイマツ(蟻の松明) *Multiclavula clara*

シロソウメンタケ科シラウオタケ(キリタケ)属の担子地衣類ですが、キノコとしても扱われています。その理由は、他の地衣類が子囊菌類で小型の子器をつけるのに対して、このアリノタイマツは担子菌類で子器(子実体)が大きいからです。地面を一面に覆う灰緑色の、藻類と共生する地衣体の上に、6月末から7月末にかけての梅雨頃と9月初めの秋霖頃の雨の多い時期に、群生する子実体を見ることができます。子実体は長い棒状で高さ2~4cm、新鮮な子実体は、橙色~淡灰色を帯びた橙色、乾くと先端は赤味を帯びて萎れ、下部は汚れた暗橙色になります。

高良川流域では、寺尾谷の切り通された半日陰の赤土崖や、切り開かれたアカマツの苗畑の赤土の裸地で出会ったことがあります。高良山では、森林公園駐車場脇の切り通された路傍の泥質片岩上や風化した赤土崖で見られます。筑後地方では久留米市上津町の高良台、黒木町の城山、小都市津古など路傍の切通しの赤土崖や、赤土の裸地(久留米市藤光町の高良台)で見ることができます。一般に、アリノタイマツが発生する場所は裸地であり、遷移していく不安定な場所です。人為的な除草などが行われな限り、植生の変化とともに数年で生育地も消滅していくことが多い菌類です。またそのような裸地は、キノコや地衣類の観察会が行われるような場所ではないので、観察会などで出会うことも稀です。そのため、裸地で鮮やかなオレンジ色の子実体を見かけると、「こんな厳しい場所ですって頑張っているんだ。」と思って、声援を送りたくなります。また、同属のシラウオタケ(キリタケ) *Multiclavula mucida* は、筑後地方では八女市の童男山で出会ったことがあります。溪流脇の腐朽したスギの湿った倒木上に灰緑色の地衣体が一面に広がった上に、高さ0.5~1.5cm程度の白色の棒状の子実体が多数群生します。

## 例会報告

## 第419回例会

## 春の野草を愉しむ会 古賀信夫

3月29日(日)毎年恒例の「春の野草を愉しむ会」を開催しました。会場は筑後川河畔のくるめウスです。今年も多くの方に参加していただきました。事前の採集、当日の料理いずれも大変に喜んでいただきました。当日参加していただいた方からたくさんの感想文をいただきました。以下掲載します。

## 久留米市上津町 大木恭子

今日はお天気にも恵まれ、食べられる野草がたくさんあることも知りました。なかなか名前は覚えられませんが、覚えたいです。つくしや椿の天プラ、ヨメナジュースなどおいしくいただきました。楽しかったです。

## 久留米市上津町 大木ゆずか

やきそばがいちばんおいしかったです。

## 久留米市上津町 たる木ゆう一ろう

てんぷらがおしかったです。

## 久留米市江戸屋敷 安達真弓

料理楽しかったです。しかもおいしかった。また来たい。

## 久留米市西町 北野孝之

はじめて「春の野草(=薬草?)を愉しむ会」に参加しました。本日の料理でいただいた野草は16種類くらいでしょうか。その内8種類はじめてで、「これも食べられるの?へー!ホー!」と感動しながら食べました。老若男女集う楽しい会でした。ありがとうございました。

## 久留米市野中町 岩竹恵子

野草の種類と料理にびっくりしました。河原を歩きながらこれから野草をさがしていきたいと思えます。

**三井郡大刀洗町 安達美津子**

おもむきあふれた食事ができました。とてもおいしかったです。そしてとても元気になりました。

**久留米市藤光 津田公子**

田芹の美しいことに先ず感激し、いろいろな野草を先生の説明をお聞きしながら摘んで、お料理をし、楽しい一日をすごすことができました。春を満喫できて、有難うございました。

**久留米市上津町 金城道博**

野草を観察したときは、本当に食べられるのかと思ったけどとてもおいしかったし、名前も分ってよかったです。

**久留米市野中町 瀧内修一**

メジャーな野草である菜の花やつくしなどしか食べたことがなかったのですごく勉強になりました。普段から見る野草に対してイメージが変わりました。

**久留米市野中町 瀧内駒子**

野草料理楽しくいただきました。色とりどりの野草を様々な調理方法でおいしい料理に仕上げてしまうことに驚きました。下準備も大変だったと思います。ありがとうございました。

**久留米市上津町 金城智子**

野菜でこんなにお腹が一杯になったのは初めてです。ありがとうございました。

**久留米市梅満町 樽木朋子**

初めて参加しました。親子で楽しみました。野草とは思えないとても美味しい料理でした。ありがとうございました。



野草の天ぷら

**第420回例会****樹木の名札付け 河内俊英**

高良山遊歩道・後谷コースの樹木の名札付けは、5月24日(日)に実施された。市の担当者2名と守る会のメンバーを含め参加者総数は、子ども4名を含め19名であった。高良内幼稚園駐車場で若干の注意事項と本日の予定を確認して、10時に出発した。このコースの樹木の名札付けは、15年ぶりくらいになり当時と比べて整備されているが、大きな樹木が残っている。イノシシが、歩道に堆積している落葉を掘り返した後が散見される。

このコースで特に目立つのは、アカガシの大木が残っていることであり、高良山では珍しい。アカガシは、樹高20~25メートル、胸高直径は70センチにもなる。樹皮は灰黒褐色で、老木になるとケヤキに見られるように、大きく剥がれる特徴がある。材は強く、堅いため、建築材、船舶や車両材、農具や楽器、木刀、さらに薪炭、シイタケのほだ木等広く使われてきた。

また他に興味深い樹木としてネジキがある。ネジキは、日当たりの良い山地に生え、およそ6m位までになるツツジ科の落葉小高木であるが、本州・四国・九州の各地、台湾・中国にも分布する。ネジキはアカマツの二次林に多く生育しているが、近年マツ枯れが多くなり、その跡に生える植物によって減少傾向があることから、将来的には限られた地域にしか見られなくなる可能性がある。ネジキの名前の由来は、樹皮がねじれている意味であるが、材にもねじれがあり、細工物には使えないということである。広島宮島では、短く切ってしゃもじを作るのに利用したという。ネジキの葉にはグラノトキシンというテルルペンの仲間が含まれ、アセビやレンゲツツジと同様に毒性がある。

今回の名札付けは指導者が橋田先生だったこともあり、あまり多くの樹木に名札は付けられなかったが、家族で参加された幾組からの方々も、親子で共同して名札付けを楽しんでいただけたと思う。前日までの予報が、雨の予報だったことか

ら、豚汁・ご飯を担当された橋田先生は前夜遅く  
なってから、食材の準備から調理まで大変だった  
ようです。お蔭で参加者一同美味しい昼食をいた  
だけましたこと感謝とともに、ご馳走様でした。

## 樹木の名札付け 感想文

### 筑前町 田中秀子

さわやかで楽しい観察会でした。シロバイ・オオ  
カグマ・シシガシラ・ミミズバイ・アリドオシ。  
5つは忘れないようにします。

### スタッフT. O

おみそ汁がすごくおいしかった。

### 久留米市津福本町 帆高美子

約3時間、ゆっくり樹木の名札付けに参加させて  
いただきありがとうございます。初体験でした。  
次回も参加したいと思います。

### 久留米市山川町 行徳みちよ

天候が心配でしたが、良い天気になりました。木  
陰をゆっくり歩きいくつもの樹木の名前を教えて  
もらいました。大木が多いのにびっくり。アラカ  
シ、タブノキ、リョウブ、ヤマモモ、改めて高良  
山の自然の素晴らしさに感激した一日でした。次  
回を楽しみにしています。具沢山で栄養満点の豚  
汁ごちそうさまでした。

### 久留米市藤光 古賀良人

木の名前を知った事でより自然に近づいた気がし  
ました。

### 久留米市上津町 大木ゆずか

ボロボロの木を見ながらのしくお弁当をたべた  
のが楽しかったです。

### 久留米市東合川町 緒方充子

久しぶりに参加して楽しく勉強出来ました。

### くらはちみさき

ぼろぼろの木をはじめて見てうれしかったです。

### 久留米市御井町 みづきみつこ

きのなまえとくさのなまえをしてたのしかった  
です。

### 倉八花梨奈

ハゼノキ科ハゼノキをじぶんで書いて、名前も書  
いてうれしかったです。

### 久留米市上津町 大木恭子

高良山にこんなに沢山の知らない木があるなんて  
感動でした。タブの木、リョウブ、ボロボロの木。  
少しづつ覚えたいですね。皆で食べた豚汁、ごは  
んもとても美味でした。ありがとうございます。  
楽しい一日でした。



こんなふうにして樹木に名札を付けました

## 第421回

### キノコ観察とキノコカレーの会

### 丸山由紀子

7月20日(海の日)恒例の例会「キノコ観察会」  
を、今年も高良台演習場周辺で行いました。講師  
は、福岡県緑化センターの金子周平先生で、毎回、  
ちびっこから大人まで、みんなが納得する説明を  
していただいています。今年の夏は猛暑が続いて  
いて、この日も蒸し暑く、「もあっ」とした空気  
の中での観察会となりました。毎年、この観察会  
に参加していますが、今回ここではじめて出会っ  
たキノコがサンコタケです。目立つオレンジ色で、  
文字通り3つに分かれており、中に怪しげな粒々  
が付いています。におってみると何とも言えない  
臭いで、鼻を近づけるのはやめた方がいいキノコ



です。加齢臭ならぬ「カレー臭」のニオイワチチタケとともに、実物を手に取った人だけが味わえる(?)キノコ体験でした。子どもから年配の方まで、参加者31人が探し当てたキノコは、全部で41種類でした。温水プール2階に会場を移して、当会会長お手製のキノコたっぷりカレーをおいしくいただいた後、皆で採集したキノコのまとめを行いました。高良台に残る照葉樹林と、そこで樹木と共に生きてきたキノコの歴史について教えていただき、「生態系」について考えることができた観察会でした。

### キノコ観察会とキノコカレーの会 感想文

#### 久留米信愛女学院高等学校 藤岡歩美

きのこについて何も知らずに参加したけど、たくさんきのこの事を教えてもらいました。もったきのこについて知りたいと思いました。

#### 久留米市御井町 浦田義和・和美

次は長ぐつと手袋とルーペを用意します。すぐく目を凝らさなければ見つけられないので頑張りました。

#### 久留米市東町 梅野忠

はじめての参加です。いろいろなきのこをとってあるのに驚きました。へビが出なくてよかったです。自然を守る会の創草期に知り合った松藤さんが参加されてありなつかしかった。

#### 久留米市荒木町 金子真由美

みんなの目で探すとたくさん見つかるものですね。ヒナツチグリがかわいくてすきです。カレーの香りや黄色い汁の出るきのこ、赤やダイダイ色のきのこ、食べられるきのこ、毒きのこ、いろいろ出会えてよかったです。ついでに花や虫に詳しい人も参加されて歩きながら教えていただきました。きのこカレーおいしかった。お世話になりました。

#### 久留米信愛女学院高等学校 徳吉遥香

今日は、たくさんきのこを観察できて今まで見たことのないきのこが沢山あり驚きました。見た目はそっくりでも毒があるものなどたくさんを知ることができました。きのこにも様々な種類がありおもしろかったです。

#### 久留米信愛女学院高等学校 淵上沙希子

今日は、さまざまなきのこを観察できて、身近な山にこんなに沢山のきのこがあることに驚きました。食用のククラゲを見つけてうれしかったです。毒きのこもあるけれど、種類の多いきのこを見ることはおもしろいなと思いました。

#### 久留米信愛女学院高等学校 江崎優佳

昨年と同じ場所にきのこ(アンズタケ)が生えていて、菌糸がまだ残っていたんだなと思いました。来年もまた同じ場所に生えているかもしれません。

#### 久留米市西町 小西なほみ

初めて参加しました。いろいろな種類のキノコにであえて感激しました。食べられるキノコが意外と少ない事にも驚きです。カレーのニオイがするキノコは忘れそうにありません。

#### 久留米市長門石 田中かの子

初めて参加しました。キノコは割と目にする機会がありますが、区別がつかせませんでした。このように教えて頂くことで興味深く見ることができるようです。色や虫の臭いが色々あるのに驚きました。特にカレーの臭いやカブト虫の臭いには感激しました。ありがとうございました。キノコカレーもおいしかったです。

#### 久留米市国分町 倉八かりな

1回めのとき、いろいろなきのこがあるんだなと思いました。なまえをぜんぶおぼえて、きのこ名人になりたいです。びっくりしたことは、虫とか、かえるをみて、びっくりしました。かえるのなまえは、山赤かえるです。体全体が赤くて足のほう

がくろいです。虫のなまえは、むかです。手にさされたらひろがるからさわるときには、手ぶくろをしてさわってください。

### 久留米市山本町 石橋朱美

形も色も珍しいのがあります(サンコタケ、ベニイグチ、ヒメツチグリの仲間)おもしろく感じました。どなたか持参された本を見せて頂き楽しさが増しました。ありがとうございます。PS集合場所に目印があったら良いと思います。会場が2ヶ所なので地図が入っていたら良かったと思います。



キノコの同定中

### 久留米市諏訪野町 野田敦子

はじめて参加しました。以外と多くのキノコがあるのに驚きました。いろいろと教えていただいたので森を歩く楽しみが増えました。この自然豊かな森を守っていききたいとも思いました。(子供達のために)

### 久留米市山本町 寺松琴江

きのこを食材にして料理するのは楽しいだろうと思い、でも毒きのこが怖いので詳しい先生と一緒に見てもらって食べるのなら安心だと喜んで参加しました。毒きのこは2種類食べておいしいもの2種類でした。色んなきのこが取れて楽しかったです。ありがとうございます！

### 久留米市御井町 浦田真由美

森林浴をしながらの山歩き。初めて見るキノコ達、最初は目が慣れず見つけられなかったけれど、段々慣れてきてアンズタケ、キクラゲなど取ることができました。きのこカレーも用意しておいて下さり、ありがたかったです。大変お世話になりました。夏休み孫が帰ってきたら早速同じところへ連れて行って教えます。



キノコ自然観察会 キノコ同定		2015年	
	科名	種名	
1	3 キシメジ	エセオリミキ	○
2		カレバキツネタケ	○
3	4 (ツキヨタケ)	モリノカレバタケ属	○
4		アシグロホウライタケ	○
5	(ホウライタケ)	ホウライタケ属	○
6	7 (シジミタケ)	シジミタケ属	○
7	8 テングタケ	コンテングタケモドキ	○
8		カバイロコナテングタケ	○
9		カバイロツルタケ	○
10		ツルタケ	○
11	フウセンタケ	フウセンタケ属	○
12	16 イグチ	ベニイグチ	○
13		ミドリニガイグチ	○
14		ニガイグチの仲間	○
15		モエギアミアシイグチ	○
16		イグチの仲間	○
17		イグチの仲間	○
18	19 ベニタケ	クトハツモドキ	○
19		オキナクサハツ	○
20		クサハツの仲間	○

21		ヤブレベニタケ	○
22		ベニタケ属	○
23		ベニタケ属2	○
24		ベニタケ属3	○
25		ベニタケ属4	○
26		ニオイコベニタケ	○
27		シロハツモドキ	○
28		チョウジチチタケ	○
29		ニオイワチチタケ	○
30	20サルノコシカケ	ハカワラタケ	○
31		ニッケイタケ	○
32	21マンネンタケ	マンネンタケ	○
33	22ウロコタケ	モミジウロコタケ	○
34	26サルノコシカケ	キアシグロタケ	○
35	27ヒメツチグリ	ヒメツチグリの仲間	○
36	30キクラゲ	アラゲキクラゲ	○
37	33ノボリリュウタケ	サンコタケ	○
38	35ホコリタケ	ノウタケ	○
39	41アンズタケ	アンズタケ(杏子の香り食)	○
40		トキイロラッパタケ	○
41	ノボリリュウタケ科	クロアシボソノボリ リュウタケ	○

### 河川愛護月間でポスターを掲示

古賀信夫

毎年7月は国土交通省の提唱により河川愛護月間と定められており、本年も同月1か月間筑後川防災センターくるめウスにて筑後川周辺の学生、生徒、市民グループによる活動発表と掲示が行われました。当会では今年も活動記録をまとめたポスターを掲示しました。昨年と同様、ほとんど壁新聞に近い形式ですが、立ち止まって読んでくれた人はどのくらいいたのでしょうか。目立つポスターにした方がよかったかもしれません。来年までの検討課題です。

今年も県土整備事務所で印刷していただきました。ありがとうございます。



掲示したポスターです

### 金丸川水系研究調査発表後の追加補正(最近1～2年間分) 平成27年7月野口勝司

水生生物の推移及び写真説明(本文24P～25P)

鳥類 観察しやすいもの

☆ガンカモ類 カルガモ マガモ ヒドリガモ(下流域)  
サギ類 コサギ チュウサギ アオサギ(全域) セキレイ類 ハクセキレイ セグロセキレイ減退(中流域) 写真補足

☆ユリカモメ 12年前まで下流域に見られた印象的な冬鳥カワセミ 水面近く水平に飛ぶ色鮮やかな留鳥鳥類 筑後大堰建設以来満潮時の水流の逆流現象がおこり筑後川水門付近までススキ ボラ遊泳、中流域筑後川への合流点から1.5km付近までハゼ類の仲間を稀に観察することができる。写真説明補足(本文25P、31P)

セスジユスリカの幼虫—通称アカムシ(魚の餌) 激減している。モノアラガイ—寄生虫(肝蛭)の中間宿主 —同上 サワガニー—普通清流に栖む 時々見られるきれいなカニカムリカイツブリー—おおがた(写真) 小型が普通 減少ベニイトトンボ—美しいので挿入した今は見かけない

その外水生昆虫 ガムシ マツモムシ タイコウチなど最近減少している。

水辺の植物 セイパンモロコシ ヤナギハナガサなど近年侵入してきた外来種が増殖しセイタカアワダチソウ オオバタクサなどと優占種を競っている。

その外 水田地帯—約200ha が工業団地 住宅地帯に変わり小鳥の鳴き声も聞かれなくなった。ヒバリ スズメなど 往年の田園風景も昔の夢物語になった。

## 《行事案内》

## ◇ 第422回例会：

## 筑後川観月会

天体観察と星座、お抹茶もあります。昨年に引き続き2人の語りべからお話をききます。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：9月18日（金）雨天決行

〔集合・解散場所〕：くるめウス

〔集合・解散時間〕：19：00 21：00

〔参加費〕：300円 定員50名

〔持ち物〕：筆記用具

〔共催〕：筑後川まるごと博物館実行委員会

## ◇ 第423回例会：

## ネイチャーゲームと自然観察会

全国いっせいのネイチャーゲームと昆虫と植物の自然観察会を行います。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：10月18日（日）雨天中止

〔集合・解散場所〕：高良内幼稚園駐車場

〔集合・解散時間〕：10：00 14：30

〔参加費〕：無料 定員30名

〔持ち物〕：水筒、帽子、筆記用具

〔共催〕：くるめネイチャーゲームの会

## ◇ 第424回例会：

## 久留米の歴史と文化と自然探訪

御井町周辺の史跡探訪を行います。講師は樋口一成氏（元草野歴史資料館館長）です。事前に申し込みをお願いします。

〔日 時〕：12月12日（土）雨天中止

〔集合・解散場所〕：元御井町公民館駐車場

〔集合・解散時間〕：13：00 14：30

〔参加費〕：無料 定員50名

〔持ち物〕：筆記用具

## ◇ 第6期「身近な植物ボランティア養成講座」

実施日 9月22日、10月31日、11月28日、  
12月19日

集合・解散場所 元御井町公民館駐車場

集合・解散時間 9：30 12：00

## 《事務局だより》

我が家の猫の額のような小さな庭にも多数の生物が生息しています。4年ほど前までは雑草取りをしていたが、70歳を超えると蚊や外の暑さに負けてすっかりおっくうになってしまい雑草を取っていません。するとなんといろいろな生物が戻ってきているではないか。ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、ヤモリ、ツチガエル、ミミズ、ナミテントウ、バッタ、キリギリス、コオロギ、コガネムシ類、妻の植栽にはアゲハチョウ、ツマグロヒョウモン、モンシロチョウ、キタキチョウ、金魚鉢代わりのベビーバスにはハグロトンボまでも。なかでもニホンカナヘビは以前は見ることのなかった爬虫類です。ちょっと自然が戻るとこれほどまでも生物が戻るとか感心しています。

（大木武彦）

ホームページ <http://kurumenoshizen.net>

## 1. 会員異動

入会 金子周平 田中かの子（久留米市）

## 2. 会費納入について

会費は、会の活動を支える源です。まだ、会費を納入していない人は振替用紙（口座番号01750-1-40114）に年会費2000円をご確認のうえ納入をお願いします。

## 3. 原稿募集

次号126号は平成28年1月1日発行予定です。原稿のめ切は12月1日です。皆さんの原稿をお待ちします。

## 4. 幹事会兼事務局会議のご案内

幹事会（定例）は原則として奇数月第1水曜日の19：30～21：30まで、えーるピア2Fで行います。皆さんも気軽にご参加下さい。（9月2日、11月4日、平成28年1月6日）

## 久留米の自然

平成27年9月1日第125号  
発行 久留米の自然を守る会

E-mail [hashida@kurumenoshizen.net](mailto:hashida@kurumenoshizen.net)

発行者 橋田沙弓

事務局 〒839-0827

久留米市山本町豊田2320-6

TEL 51-7064 FAX 51-7065（古賀）

印刷 千年屋印刷

TEL 43-2400 FAX 43-2408